

2013年2月7日

静岡新聞 編集局長殿

信濃毎日新聞 編集局長殿

食のコミュニケーション円卓会議

代表 市川まりこ

<http://food-entaku.org>

貴紙1月21日付記事「組み換え菜種自生拡大、交雑も」に関する意見とお願い

私たちは、「食の問題についてより良いコミュニケーションを育みたい!」との思いから主婦、事業者、研究者、教育者、メディアや行政関係者など様々な立場のメンバーが、互いに学びあうという精神で集い、科学的根拠に基づく学びや体験、対話の中から得られた成果を社会へ伝える活動を進めている消費者団体「食のコミュニケーション円卓会議」です。

貴紙1月21日付「組み換え菜種自生拡大、交雑も」記事に関して、以下に示すように、いくつか事実誤認があると思われませんが、下線部の表記とした根拠をお示し下さい。また、事実関係確認の上、事実誤認であれば訂正報道等のご対応をお願い致します。

1. 記事中で「国内でカラシナや在来の菜種と交雑した個体が生えているのが確認されている」とありますが、在来菜種との雑種は見つかっているものの、カラシナとの雑種は確認されてないはずです。
2. 「事態は深刻化している」とありますが、何も問題は起きてないと認識しています。輸入されている遺伝子組換えナタネは、法律に基づいた安全性評価を行い、国内で栽培するための承認を得ています。こぼれ種が自生していることに問題はなく、また雑種が生存域を拡大しているという事実もありません。
3. 「交雑が広がれば、組み換え菜種の遺伝子が移行した近縁の野菜を知らないうちに栽培するケースが出てくる」とありますが、これは考えにくいです。なぜなら、野菜の種子はF1品種を利用しているため、一般の農家は毎年種苗会社から購入しています。自家採種する方についても、白菜や小松菜が菜種と交雑したら、白菜や小松菜からかけ離れた形態になるため、商品価値はなくなり流通するとは考えられません。
4. 「雑草のハタザオガラシとの交雑とみられる個体も三重県で見つかった。」とありますが、まだ科学的に確認はされていないはずです。「交雑とみられる」と慎重な表現をされていますが、この記事の流れの中で記載されれば、読者はあたかも雑種個体が見つかったように誤認されると思われまます。

これらの問題を考えるために、以下の情報を参考にしてください。

- 1) 記事中の河田昌東氏は、以前にも遺伝子組換えナタネとアブラナ科のイヌガラシ（野生植物）の雑種が発見されたと主張して、各紙で報道されました。しかし、河田氏らが分析を依頼した国立環境研究所による分析の結果では、雑種でないと判断されました。

この情報は、国立環境研究所 生態遺伝情報解析研究室 中嶋信美室長のブログに掲載されています

(http://seitaijoho.c.blog.so-net.ne.jp/_images/blog/_ad3/seitaijoho/inugara2.pdf?c=a2)

- 2) こぼれ種から自生した遺伝子組換えナタネからカラシナとの雑種は見つかってないと報告されています (<http://www.bch.biodic.go.jp/download/natane/H24.9.11nataneyousa.pdf> を参照)。また遺伝子組換えナタネからカラシナへの遺伝子拡散は極めて起こりにくいことが、以下の学術論文で発表されています。

Tsuda et al. (2012) Relationship between hybridization frequency of *Brassica juncea* × *B. napus* and distance from pollen source (*B. napus*) to recipient (*B. juncea*) under field conditions in Japan. *Breed Sci.* 2012 September; 62(3): 274–281.

- 3) 商業利用されている遺伝子組換え農作物は、カルタヘナ法により生物多様性への影響評価を行い、食品衛生法や飼料安全法により食品または飼料としての安全性を評価し、安全性が確認されたものだけが流通する仕組みになっています。

<意見>

2011年には、世界では1億6,000万ヘクタール（日本の国土の4.2倍）の耕地で栽培され、日本には1,700万トンの遺伝子組換え農作物が輸入されていると推定され、利用されています。しかし、遺伝子組換え農作物については、消費者の中にはまだ不安や懸念を持っている人もいます。

消費者は、情報の多くをテレビや新聞等のマスメディアから得ていますので、記事を書いたり、情報を社会に送り出す立場にある人の社会的責任は重いと考えます。科学的根拠に基づいた良質の情報を、分かりやすく伝える役割をしっかりと果たしてほしいと思います。

この質問書は、御社にお送りするとともに、情報を共有するために、食のコミュニケーション円卓会議 HP に掲載致します事をご了承ください。なお、回答の有無につきましても掲載していきま

す。
今後の貴社の対応について、2月18日までにご回答をお願いします。

連絡先

食のコミュニケーション円卓会議